

平成16年度高知女子大学看護学会「公開講座」報告

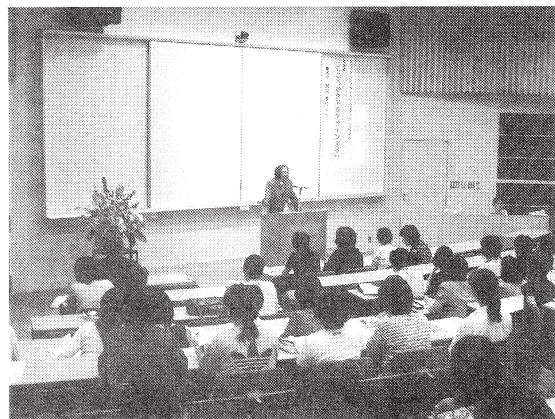
山 田 覚*

平成16年度および17年度のメインテーマである「ヘルスケアをデザインする」に対応し、『こころのケアをデザインする』と題して、平成17年6月11日(土)に、高知女子大学看護学会公開講座が、池キャンパス大講義室にて開催された。様々な施設から、191名の看護や介護に携わる方々のご参加を得た。

講師は、平成17年4月に高知女子大学に赴任されたばかりの、看護学部粕田孝行教授にお願いした。粕田教授は、大学卒業後、東京武蔵野病院を経て1974年から医療法人社団碧水会長谷川病院に長年看護管理者として勤務され、副院長兼看護部長を歴任されている。この間、多くの専門学校や大学にて非常勤講師を務められ、著書に「ヘルスケア概念と看護実践」編集(へるす出版)、「セルフケア看護アプローチ」共著(日総研出版)、「精神科看護とリハビリテーション」共著(医学書院)、

「臨床精神医学講座S5 精神医療におけるチームアプローチ」共著(中山書店)などがある。

近年、さまざまなこころの問題が日常のニュースでも多く取り上げられており、精神看護学領域ではもちろんのこと、看護管理者としても看護職者の支援等にご活躍されて来た粕田先生とともに、専門職者としてこころのケアをどのようにデザインしていくのかについて、考える良い機会となった。ご講演では、こころのケアをデザインするに当たり、フロイト、エリクソン、マラーの理論をレビューしながら、人の誕生からはじまるであろうこころの旅路を辿り、こころの形成は重要他者とのかわりによる対人関係が基本となっていることを確認した。また、こころの形成過程を踏まえながら、セルフケア理論を通して、こころのケアのデザインを考えた。その後会場を交え、本テーマに関する議論が交わされた。



* 高知女子大学看護学会企画委員長